

ボランティニア ニュース No.361



マジックで大笑い、コロナも吹き飛ばそう!

7月2日、2区集会所の「お茶の間サロン だんだん」にマジックボランティアの倉本昭吾さんがゲスト出演されました。

大野地域在住の倉本さんは、退職後マジックを始められ、12年間活躍され続けており、地域のたくさんの場所に笑顔を届けています。

紙を千円札や一万円札に変えたり、赤ワインに布を被せると水になったりとたくさんのマジックを披露してくれました。

サロン参加者や世話人さんも、「すごい!どうやってやるんじやろ」「全然タネがわからんね」「ほんとに紙がお金になったらいいのにね」「倉本さん、マジックもじゃけど、お話しも上手!」と会場内は終始、笑顔で包まれていました。

倉本さんは、マジックだけではなくギターとハーモニカも披露してくれました。「ふるさと」、「夕焼け小焼け」、「星影のワルツ」などみんなで歌い、とても楽しいひと時となりました。



「かざぐるま」で活動しておられる Tさんに聞いてみました】 (大野事務所：嶋崎真衣)

① ボランティア活動を始めたきっかけ
約30年前に友人に誘われて、障がい者のいる施設や作業所に行ったことです。自分たちが当たり前のようにやっていることが当たり前でなく、人の手を借りないと難しい方たちがおられることに衝撃を受けました。

②手話サークルに入る
ある日、大阪から耳の不自由な方が宮島に観光に来られるということで、ボランティアとして参加しました。ところが、みんなが手話で楽しそうにお話しをして笑っているのに、自分には何を話されているのかわからず、とても寂しく悔しかったんです。耳の不自由な方と友達になって会話をするためには手話が必要だと思い、「かざぐるま」に入りました。

⑤インタビューを終えて
Tさんは、「やってみたい、と思ったら一度やってみる。やってみないと分からないからね!」とも話しておられました。まず、自分のできることをできる範囲でやるということが大切で、そうすることで自分も成長できるということがとても伝わってきました。自分のできそうなこと、得意なことをやってみる。Tさんのようになんでも取り組んでみる姿勢の先には、たくさんの人との出会いがあるのだと感じました。思い切ってチャレンジしたことが、きっと誰かの幸せや笑顔につながっている、とても温かいインタビューとなりました。Tさんは、現在も手話サークルや小学校での福祉学習のボランティアなどで楽しく活動されています。

③どんな活動を
手話を学んでからは当時、ケータイもメールもなかったので、学校や消防署にFAXの設置をお願いに行ったり微力ながら、病院の付き添いや参観日の通訳もさせていただきました。

④「ありがとう」の思い
ボランティアは本当にたくさんあると思います。手話だけでなく、ガイドヘルプや車イスの介助、小学校の読み聞かせなどもさせていただきました。自分のできることを、自分から進んで心を込めてする、そうすることでたくさんの方を助けていただきました。自分の人生を導いてくれ、いろんなことに気づかせてくれました。だからボランティアをさせてくれて「ありがとう」と思うんです。

手話サークル「かざぐるま」定例会
☆定例会 第1・3水曜日 10時~12時
☆場所 大野支所 3階
☆お問合せ 社協大野事務所まで



親子の居場所

「十人十色 おしゃべりサロン」

いろいろな理由で学校に行けていない子と保護者が集まって、情報交換ができる場です。

自分のペースで過ごせます!

まずはおしゃべりしませんか?

参加費無料、時間内は出入り自由です。

【とき】

令和4年10月11日(火)11時~15時

【ところ】

大野支所 3階 ボランティアセンター

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止する場合があります。

おしゃべり会

障がいのある子どもを育てる保護者が集まって「おしゃべり会」を行なっています。子育ての悩みを相談し合ったり、楽しくおしゃべりしたりと、さまざまな情報交換(…という名のおしゃべり)をしています。

徐々に参加者も増えて賑やかになっています。小さなお子様連れも大歓迎です。おしゃべりをしてリフレッシュ♪ 楽しく一緒に過ごしませんか

次回 10月12日(水)10時から12時

